

## 「主イエスの仲間であると言います」

2015年08月26日

ルカによる福音書 12章8節～12節。「言っておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言います者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言います。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、神の天使たちの前で知らないと言われる。人の子の悪口を言う者は皆赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されない。会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」

主イエスは続いて弟子たちに語っている。「言っておくが、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言います者は、人の子も神の天使たちの前で、その人を自分の仲間であると言います。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、神の天使たちの前で知らないと言われる。」主イエスの仲間であると自認し、公表する人は、神の前で主イエスの仲間であると認められる。弟子たちは主イエスの仲間であることに誇りと使命を持っていた。その彼らは神の御前で是認されるという意味である。

この言葉はルカ福音書が書かれた 80 年代のクリスチャンに対する励ましを書いたものではないか。教会に対する誤解と偏見に満ちていた当時、クリスチャンが主イエスの仲間であると表明することは社会的な大きなリスクがあった。その彼らに対し、あなた方は神に覚えられているというメッセージを込めている。

現在の日本の宣教においても、地域によって、キリスト教が市民権を得ている所と、そうでもない所がある。教会に行く人は何か問題を持っている気の毒な人と見られ、地域から浮いた存在と理解されることが多々ある。また、教会に行くことは許すが、洗礼を受けることは許さないとされている人が幾人かおられた。その人々は葬式を教会ですることは決して許されない。キリスト教が市民権を得るために、多くのクリスチャンが血を流す闘いをしてきたことを思い起こす。その闘いは今も続いている。初代教会の人々が主イエスの仲間であると公表することは神に覚えられているということで、大きな励まし、勇気を与えられるメッセージであった。

主イエスは更に「しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されない。会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなどと心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる」と続けている。「聖霊を冒瀆する者は赦されない」という言葉はマルコ福音書3章で、律法学者たちが主イエスの働きを否定しようとした状況で「はっきり言っておく。人の子らが犯す罪やどんな冒瀆の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う」と書かれている。聖霊は人間に直接関わり、働いてくださる神の力である。聖霊を否定することは神との関係が切れるということである。あなた方は今後、役人や権力者の前で、キリスト教を弁明することが強要される。その時、臆するな。語るべき言葉は聖霊ご自身が教えてくださる。弟子たち、初代教会の人々には限りない励ましになったろう。

現在の日本は歴史の曲がり角に立っている。戦争中、皇国史観に飲み込まれ、戦争協力をした罪を謝罪した「戦争責任告白」を教団は公にした。教会はキリストの福音に従い、聖霊に押し出され、言うべきことを言い、成すべきことを成すことが求められている。